

第3回 学校運営協議会 議事録

- 1 日時: 令和7年10月28日(水) 10:00~12:00
 - 2 場所: ミーティングルーム
 - 3 議題:
 - (1) 学校からの報告: ドリームプロジェクトについて
 - (2) 第2回みんなで学校運営協議会の振り返り
 - (3) 前期学校評価について
 - (4) 前期学校評価の結果に基づく協議
 - (5) その他
-

1 校長挨拶

第1回からの積み重ねとして、皆様と協働していく工夫を考えていきたいので、本日は忌憚のないご意見をいただきたい。

(1) 過去の学校における地域協働活動の事例紹介

自身の経験と学校の状況

- ・ 以前、市の小学校で教頭を務めた経験がある。
- ・ その小学校は、地域学校協働本部の活動が伝統的に盛んに行われている場所であり、他県からも視察が来るほどであった。これは学校協議会の発展形として地域に目指した活動であった。

巴サポーターズの活動

- ・ 学校の近くにあるお城の家紋である「巴」をかたどった「巴サポーターズ」と名乗るグループが存在した。
- ・ これは、OBを中心とした方たちで構成され、学校からの依頼がなくても、「自分たちが必要なこと考えるから」というスタンスで、自発的に活動をしてくれた。

地域課題と解決への協力（袋井市の事例）

- ・ 当時、その学校（袋井市）では、外国の子供たちが非常に多く、児童約 1000 人の中で 100 人程度が外国の方という状況であった。
- ・ 文化の違いから、地域住民の間で軋轢が生じていた。特にゴミの出し方について、曜日を守らない、きれいに収めて出さないといった問題が生じていた。
- ・ この状況に対し、バサポーターズは、放課後の日本語指導を学校で実施することを提案した。
- ・ サポーターズの方々が予定表を持参し、毎週 1 回、「寺小屋」という名前で外国の子供たちに日本語を教えた。

活動の成果（ウィンウィンの関係）

- ・ 子供たちが家庭生活の中で親に伝え、日本語が豊かになったことで、自治会の活動（ゴミ出しなど）に関する理解が進み、活動が円滑になった。
- ・ このように、地域と学校がウィンウィンの関係で様々な活動を行う効果が見え始めた。

(2) 現在の活動（愛鷹分校への評価）

- ・ ふり返って考えると愛鷹分校についても、相当な御努力をいただいている。
- ・ 一例として、「かどいけ通信」に分校の記事を掲載いただいている点が挙げられるが、県内でも自慢できる体制をとっていただいている。

(3) 今後の方向性

- ・ 本日は、後期に向けての活動を検討していきたい。
- ・ これまでの実績をもとに、次に進んでいただけたらありがたい。

2 報告事項

本協議会では、まず学校側より主要な取り組みに関する報告が行われた。生徒主導で進む「ドリームプロジェクト」の進捗、保護者や地元企業を招いて実施した前回協議会の振り返り、そして前期学校評価の結果が共有され、これらが続く協議の論点となった。

(1) 学校からの報告：ドリームプロジェクトについて

生徒が主体となって推進している「ドリームプロジェクト」の進捗状況について、以下の通り報告があった。

①プロジェクトの概要

静岡県の「ドリームプロジェクト 2020」に、県内高校生が応募する企画の中から10件の1つとして採択された生徒主導の取り組み。生徒たちの「世界に一つだけのオリジナルカップラーメンを作りたい」という発想からスタートした。

②にしはらグループとの連携

プロジェクト実現のため、地域の食を支えるにしはらグループと連携。同グループが運営するラーメン店「一番亭」の店舗を貸し切り、実践的な体験型講座が実施された。西原社長自ら「旨み」に関する講義を行った後、生徒たちは静岡県産食材を含む79種類の具材を自由に組み合わせ、試作を重ねた。この連携は、生徒たちが味の設計や食の楽しさを実感し、自信や協調性を育む貴重な機会となった。

③現在の進捗と今後の課題

プロジェクトは現在、カップラーメンの本格的な製造段階にある。生徒たちは実習の合間を縫って、以下の課題に主体的に取り組んでいる。

- ・ 製麺会社との連携：伊豆の国市の製麺会社と生徒が直接連絡を取り合い、麺の開発を進めている。
- ・ パッケージデザイン：城北高校の生徒会と協力し、パッケージデザインを募集・選考中である。
- ・ コスト調整：より多くの人に製品を届けるため、予算内で製造できるようコスト調整を行っている。特に高価な「桜エビ」の使用について、コストを抑えつつ風味を再現するため「エビの風味」で代替するなどの創意工夫を凝らして検討している。
- ・ 情報発信：学校の公式 Instagram を活用し、プロジェクトの進捗を積極的に発信。保護者などから多くの反響を得ている。

(2) 第2回学校運営協議会の振り返り

夏に保護者とワーク地域の受け入れ企業を招いて実施した第2回協議会について、多角的な振り返りが行われた。

①会議形式の評価

ア **肯定的評価**: 保護者と企業を交えた協議形式は、愛鷹分校ならではの「学校・保護者・地域」の三位一体を体現する、非常に価値のある取り組みであると高く評価された。生徒たちの学びが、学校内（ワーク工房）と地域社会（ワーク地域）で有機的に繋がっていることを関係者全員で確認できる貴重な機会となった。

イ **課題と改善提案**: 今後のさらなる発展に向け、以下の建設的な意見が出された。

- ・ **議論の進行**: 一部のグループでは、参加者同士の雰囲気や和ませるための活動に時間を要した結果、参加者が本質的な意見交換を行う時間が不足したとの指摘があった。限られた時間で率直な意見を引き出すためには、進行の工夫が必要であるとの認識が共有された。
- ・ **企業側の意見**: 企業代表委員より、次回以降の会議形式について「まず企業グループと保護者グループでそれぞれ意見交換を行い、その後で合同セッションを持つ」という二段階方式が提案された。これにより、企業側が気兼ねなく本音を話し合える環境が生まれ、より建設的な議論につながるのとのことであった。
- ・ **Win-Win 関係の構築**: ドリームプロジェクトで制作された PR 動画が西原グループの企業貢献（CSR）活動を効果的に伝えたことを参考に、協力企業を学校の SNS 等で紹介する取り組みが提案された。企業側に PR というメリットを提供することで、より強固な Win-Win の関係を築くべきとの意見が出された。
- ・ **保護者側の意見**: 保護者からは、生徒たちの活動（ワーク地域）を見学する機会や、他の保護者と交流する機会を増やしてほしいという要望が挙がった。

(3) 前期学校評価について

続いて、前期（上半期）に実施された学校評価について、職員および保護者を対象としたアンケート結果が報告された。

①職員アンケートの結果と考察 教職員を対象としたアンケートでは、ほとんどの評価項目で90%以上の肯定的な評価（「達成できている」「ある程度は達成できている」）が得られた。一方で、最も評価が低かった項目は「城北高校との交流及び共同学習」であった。これには、普通科高校のカリキュラムの制約といった構造的な課題があるものの、今年度は体育の授業で合同の「体づくり運動」が実現するなど、少しずつ進展も見られる。その他、防災学習と避難訓練の連携強化や、校則や人権について生徒自身が考える機会の創出などが、今後の改善点として挙げられた。

②保護者アンケートの結果と特徴 保護者からのアンケートもおおむね肯定的な評価であった。保護者からの主な意見・要望としては、近年の豪雨増加を背景とした緊急事態（悪天候、交通機関の乱れなど）への対応に関するものが挙げられた。

3 協議事項

報告事項を踏まえ、学校評価で明らかになった課題について、委員から実践的な助言や提言が交わされた。

(1) 学校評価結果に基づく協議：城北高校との交流及び共生社会の実現に向けて

学校評価で課題として挙げた「城北高校との交流」について、その深化と、より広い視野に立った共生社会の実現に向けた具体的な方策が議論された。

- ① **連携の現実的課題と成功事例** 普通科高校との授業交流はカリキュラム上の制約から難しい面があることは認めつつも、過去に美術や音楽といった人数が少ない選択授業で交流を実施した事例が紹介された。今後の参考になるとの意見が出された。
- ② **相互理解の促進** 企業代表委員より、「城北高校の生徒や教員に対し、障害のある生徒との関わり方に関する情報提供や簡単な研修を行ってはどうか」という提案があった。これは、どう接すればよいか分からないという漠然とした不安を解消し、より自然で積極的な交流を促すことを目的としている。
- ③ **長期的視点と社会的意義** ある委員から、「教育段階で分離されていることが、結果的に社会に出てからのミスマッチを生んでいる」という本質的な指摘があった。真の共生社会を実現するためには、教育の段階から多様な生徒が関わり合う経験を積むことが不可欠であるとし、城北高校に限らず、地域にある他の学校とも積極的に交流を模索すべきだとの長期的な視点が示された。

- ④ **保護者の視点** 保護者代表委員からは、「城北高校の生徒たちが、分校の生徒たちを普段どのように見ているのか」という素朴な疑問が提示された。交流を始める前に、事前アンケートなどを通じて互いの認識を知ることが、円滑な関係構築の一助になるのではないかと意見が出された。

4 次回に向けて

本日の協議内容に基づき、以下の事項が確認・決定された。

- (1) 決定事項 来年度夏に開催予定の、保護者・企業を交えた協議会について、今回出された意見（二段階方式の採用、Win-Win 関係の構築など）を踏まえ、学校側で具体的な開催形式の案を作成し、次回の第4回協議会で提案する。
- (2) 次回開催予定 本年度最終回となる第4回学校運営協議会は、2月18日に開催予定。当日は、本年度の学校経営計画の振り返りと、来年度の方向性について協議を行う。

5 閉会

最後に校長より、委員からの具体的かつ実践的な意見に対し深い感謝の意が述べられた。「学校が充実していくために何をすべきか、具体的な方策を伴う意見をいただき、学校のことを自分事として考えてくださっていることを実感した。いただいた力を糧に、今後の学校運営に活かしていきたい」との言葉があった。

以上をもって、第3回学校運営協議会は閉会した。なお、本議事録は後日出席者に回覧し、確認を求めることとする。